慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	芸術と経済（三）
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.3 (1919. 3) ,p.373(97)- 382(106)
JaLC DOI	10.14991/001.19190301-0097
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190301-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

communistic undertakings, there was a vast territory of fertile land waiting impatiently for honest settlers to come and cultivate. Some were already taking the advantage of the great opportunity offered, not for working in the interests of somebody else that they had never known before although he was now their fellow member in the Community, but for improving their own economic and social status and providing homes for their future wives and children. There was no necessity to remain poor if one was willing to work, and the burden of taxation was as slight as it was anywhere. Moreover, they lived under the freest government on earth and there was not a single thing to hinder their free and unrestricted pursuit of life and happiness. Under these circumstances, is it any wonder that the Owenite Communities were not supported with greater enthusiasm than they were? New Harmony, the most important and numerous of all the Communities of this period, had only nine hundred members. The average number of the members of the ten Communities, as far as known, was about two hundred. It is a great wonder that they drew even that number. Perhaps the novelty of the idea had attraction for some of the members, while others, who were out of work, probably sought there a temporary lodging house.

The nature of the undertaking and the time chosen for the experiment, then, seem to have been primarily responsible for the failure of the Owenite Communities.

藝術と經濟（三）

（文藝復興期の經濟史的研究）

阿部秀助

シエナに於ける資本主義的企業、少くとも十三世紀の後半期に於ける同市の企業的活動は主として同族の力によりしものと他は幾多の富豪が相結合して一種の放資團を組織せしものとあり、即ち前者の典型としてはトロメイ及ピコロミの兩者にして後者に屬するものとしてはサリムベニ、ボンシノリ、スコッチ等なりとす。

先づ前者たるトロメイ家に就きて考察するに同家は既に八世紀頃に其名を知られし由緒あるシエナの舊家にして、千七百十八年アレキサンダー三世（シエナのバンヂネリ家より出でし人）と同市との間に意志の疏通を欠ぐや、當時專ら之れが和解の衝に當りしものはトロメイ家のトロメオ、トロメイにして此一事を見ても

如何にトロメイ家がシエナ市に於て重要なる地位を有せしことを認むるを得可し、而して同家が十三世紀に於て、專ら投資的の事業に活動せし事實は千二百二十五年及翌廿六年の兩年に互りて宗教上の覇絆を脱せんとせしマッサ市に軍資金を供給せしが如き、或は千二百五十五年一月五日の史料の吾人に示すが如く、バルトロメオ、ベトリ、及ヂュタュヴ、グイヂ等と共同出資の下に英國に於けるウォンチェスター修道院に巨額の資金を融通せしが如き、或は e loro Compagni Mercanti Senesi di Francia と稱せられしトロメオ、ヂ、ヤコボが佛蘭西の各地に於ける都市、修道院、僧侶貴族等に對して資金を供給せしが如き、或はレイナルド、ヂ、ヤコボと彼れとが千二百五十四年十二月十二日を以て法王に對する資金調達の任務に服せしが如き、何れもトロメイ家が當時公私の兩方面に對して財力上の活動をなせし一端を示すものなりとす、殊に同家の資金供給上に於て最も重要なる意義を有せしものをシシリー事件となす、之れより先き獨逸皇帝ハインリッヒ六世とシシリー王國の繼承者たるノルマンの王女コンスタンツェの間に生れしフリードリッヒ二世は其後羅馬及獨逸皇帝の位に即くと共にロンバルヂーの鐵冠を戴き、且つブルグンド、シシリー、ジェルサレムに君臨し、其人勇悍にして大度なりしが帝は千二百五十年十二月十三日を以てフォオレンチノに逝くに至れり、而して帝と相納れざりしインノセント四世は此の機會を利用してシシリー王國を自已の勢力範圍たらしめんと欲し、新たに英王ヘンリー三世に緣故ある者を以て王たらしめんとせり、然るに王弟リチャードは之れが候補者たるを辭せしを以て法王は更に王子エドムンドを以て之れが繼承者たらしむるに至れり、當時マンフレットはシシリー貴族の援助の下に其勢當る可からざるを以て之れを打破する爲めには勢ひ巨額の軍資金を投じて同國を平定する必要あり、斯くてヘンリーは英國内にある資源を擔保として巨額の資金をシエナ及フロレンスの富豪に求むるに至れり、而してトロメイ家の人々にして此事件に關係を有せしはアレキサンダー四世の資金調達者たりしトロメオ、ヂ、ヤコボ、リナルド、ヂ、ヤコボ、法王廳に對する代表者たるクリストフォロ、トロメオ、英國方面の代表者たるヤコブス、テチ、其他、千二百六十三年ウルバン四世と不和の際に之れが調停者たりしピエトロ、クリストフォリ等なりとす、千二百六十四年十一月十八日アレキサンダー四世は其死に先ちて皇帝に味方せしシエナ

に破門の宣告を與ふると共に、同市の商人に對する外國人の支拂を禁止せしむるに至れり、殊に彼れに次で法王の位に即きし佛蘭西人ウルバン四世は更に千二百六十二年を以て之れを勵行せしめし爲め同年九月に於けるアンドレア、トロメオの市場報告書が吾人に示すが如く、英佛兩國殊に英國に於けるシエナの商人は自己の貸與せし資金を回收すること能はざる爲め少からざる困難に陷るに至りしかば、是等の大商人中には自己にとりて不利益なる同市の政策を排せんとして千二百六十二年十二月市廳と衝突し其結果ピコロミニ、トロメイ、サラチニ、ガレラニ、サリムベニ、マラヴォルチの如き富豪何れも他に移住することゝなり、爲めに市の經濟上に於ける打擊甚しきを以て市民の中には之れが復歸運動をなせしものありしも、飽迄法王に味方するを自己の利益なりと信ぜし彼等は單に市民の厚意を拒絶せしのみならず同時に市民と一戰を交ふることを決するに至りしかば、市民中の皇帝黨は遂に激してピコロミニ、トロメオの邸宅を燒き其他法王黨の所有財産を破壞するに至れり、千二百六十三年五月法王黨の軍はマンフレットの兵と衝突し、此戰鬪に於て法王側の魁首たるッチオ、トロメオ（ヤコボ、ヂ、リナルド、ヤコビ）は戰死し、同じくトロメオ家に屬するピエトロ、クリストフォリ、メオ、レナルド、メオヂ、インコントラトはピコロミニ家の二三者と共に捕虜となり、千二百六十三年九月、一萬三千「リール」の賠償金を以て辛じて釋放せられしものなりとす、只だ此衝突の爲め幾多の人命を失ひし富豪は法王との和解によりて大なる經濟上の利益を受くるに至り、即ち寺院方面の支拂禁止は解除せられ彼等は自己の債權を自由に要求し得ると共に何等破門の刑に處せらるゝことなくして國際的取引に從事し得ることゝなれり、而して此事實はウルバン四世が千二百六十三年一月六日に佛蘭西駐在の公使たるミロに與えたる御敎書の明かに吾人に示す處にして、トロメオ家の人々にして其解除を受けし人名中にはペトルス、クリストフォリ、アンドレア、クリストフォリ、と其甥グイレルムス、レナルヂ、メウス、レナルヂ、ウゴー、インコントラツス、ヂュウス、グイド、ルテレンギ、ヤコブス、タベネ、メウスタベネ、メウス、インコントラチ、テングス、コントラチ、ゲリウス、ポニンコントリ等あり、其後、千二百七十年に至り一時オロメオ家の財的活動は全く史上より消去せり、斯くの如きはスコッチの場合に見るが如くボンシノリ及フロレンスの商人の爲めに市場より驅逐せられ

し如し彼の千二百五十三年より千二百六十九年に至る迄ジャンバーニュ及英國方面に於けるトロメオ家の代表者として活動せしアンドレア、デ、クリストフォロが千二百七十五年以後、フランダー方面に於けるボンシグノリの代表者となれるが如きは、多少此間の消息を語れるものなりと信ず、千三百九年ボンシノリーの破産と共にトロメオ再び其頭を擡げ、豐富の經驗を有せしアンドレア、デ、クリストフォリロの復歸と共に新たに社中の人となりしものにはフレデリゴ、リナルデ、ピエトロ、デ、ミノデ、クリストフォロ、ニシオ、デル、フ、イルデブランデノ、デ、トロメオ等あり、斯くて再び舊時の盛況を見るに至れり、試みにスコッチ會社を以てトロメオ會社に比較するに前者が三十七人の社員中、僅かに同族五名なるに對してトロメオ會社は二十五人中、二十一名は同族より成れり、此點に於てトロメオ會社はスコッチと異なりて十三世紀に於ける殆んど純乎たる同族的企業組織と稱することを得可し。

次ぎにピコロミニの起源に就きては何等史料の徵す可きものなきも千二百二十六年トロアの各市に於てキヨルン大僧正の代表者たるゲルハルト、スカルフォニスに資金を融通せしシェナの商人中アラマンノ、ウゴニスとピコロモ、オルトラモンチスとは共にピロミニ家に屬せしものにして彼等は又ウゴ、ベンチベニ及ライネリォ、ロランデとの共同出資の下に千二百二十九年にキョルン市に對して債權者の地位に立ち其他、千二百三十四年より千二百五十八年に亘りて獨逸方面に活動せしヒュゴー、チアラモンテセの如き佛蘭西方面例者シャンパーニュの諸侯に對して債權者たりしピコロミニ、オルトラモンチスの如き英國方面に於けるトマシノ、アンコンタンの如き何れも同一の家系に屬せしものなりとす、殊に十三世紀に於ける同家の經營は殆んど同族の力のみによりてなされしものにして、只だ僅かに以太利以外の一、二の方面に於て同族ならざる者の活動を見しのみ、但千二百六十年以後に於けるピコロミニ家の商業的活動の中心は主として以太利殊に東部以太利に於て盛んなりしものなりとす。

更に後者の企業形體を代表する者の中にてボンシノリの起源少くとも千二百四十七年前に於ける之れが存在に就きては何等確實なる史料なし、彼のゴットローブは既に千二百四十年頃に之れが存立と國際的取引に從事せることを論ぜる

もエリサベット、ブォン、ローンバッサーマーンの立證する處によればゴットローブ自から引用せる法王廳の文書に於ても英國及南部佛蘭西方面の文書に就きても何等徴す可きものなきことを指摘せり(一)只だインノーセント四世に關する文書の吾人に示す處によればセオバルト、セオバルヂュチの如き千二百五十一年八月廿五日を以てボンシノリの一員たりしが如し。其他、グイド、ロランヂの如き同じく當時に於て出資社員たりしものなりとす、次ぎにサリムベニ家に於て其中心となりしものはザリムベネ、ディ、ザリムベニ即ちサリムベネ、ヂ、ゲォワンニ、サリムベニにして彼れは專らシエナを中心として千二百七十四年活動せしが其子アレキサンドロ、ベヌチオ、ヂォワンニ、ノット、チアムボロの時代に於て他方面殊に英國方面と取引關係を結び專ら同國に於ける修道院に對して資金を供給すると共に、其羊毛をフランダー方面に齎らし、又た其關係よりして此方面の貴族に對しても資金の融通を計りしものなりとす、次ぎにスコッチ商社は既に千二百四十六年四月二十八日にシエナに存し、之れが經營上の主なる人物はマルチ家のボナグイダ、ダルロットーなりとす、而して此商事會社の主として活動せし方面はマルセイユ、以太利の海港、シャンバーニュ等にて殊にマルセイユ方面に對する同社の事業は殆んどシエナ商人の大多數によりて出資せられしものなりとす、而して此方面にありて直接其事業を經營せしはレイネリオ、ロランヂにして、彼れは千二百三十六年迄ビコロミニ家の代表者として獨逸、佛蘭西、英吉利の豪族又たは僧侶に對して資金を供給せし經驗ある商人にして、同時に彼れはマルセイユに於ける自余の以太利商人と協同して專ら此方面の物資を同國同時に方面に輸出せしものなりとす、尚ほスコッチ商事會社は一面、千二百五十三年より千二百六十年に亘りて、吾人が前に述べしシシリー事件に關係せしと共に、同時に當時の羅馬法王及英國王に反抗せしマンフレットに對して軍資金を供給せしものなりとす、之れを要するにスコッチは吾人が今日迄知り得る範圍にては各方面の富豪即ちマルチ、バルチ、チタヂニ、バリオニ、トロメイ等の共同的出資に基づくシエナの大商店にして殊にスタウフェン、法王、英國王、及英國に於ける修道院、以太利都市に對する資金供給者たると共にマルセイユ、シャンバーニ、シエナ方面にありて以太利内外の商人に向つて金融上の便益を計りしものなりとす、只だスコッチと法王廳との間に於ける債務上の衝突は

其後、法王廳に關する文書及英、佛兩國の史料中より全く彼れの名稱を逸せしむるに至れり、而して之れが主要なる理由としては、スコッチが資金上の貸借關係より して法王と相納れざる傾向を生ずるに至りしと共に長年、スコッチの有力なる活動家たりしたりしヤコボ、ロメイ、ボニュグイラ、ダルロットデイ、マルチ、ラニュチオ、ヂ、ヂォワレニ、デイ、バルチ等が直ちにボンシノリの企業に加入するに至りしことなりとす。

註一　E. v. Roon Elisabeth, Sieneseiche Handelsgesellschafte des XIII Jahrhuuhert. p. 48.

（廣告主へ御注文の節は三田學會雜誌廣告に依る旨御聞御忘れなき）

陽炎もゆる春の日に
爽快なる野外散歩に
激烈なる對抗試合に
最も適し
たのは？

直榮靴店
芝三田通り木村屋パン屋向フ横町

石山洋服店
芝三田通り慶應大學前
石山洋服店

最も苦痛なる
學年は最も
樂しき春の前也
最も苦心して
作れる洋服は
最も着心持よき
元となるなり

ISHIYAMA.